

日本語辞書・韓国語辞書における 意味記述と用例の問題⁽¹⁾

— 移動動詞を中心に —

李 善 姫

1. はじめに

1.1 本稿の目的

辞書は外国語学習者、特に中級以上の学習者の語彙学習にとって重要な役割を担うものである。学習者は辞書の意味記述からその単語の意味を学習し、与えられた用例からその使い方などを学習していく。このように、辞書は外国語学習者が外国語を学習する際に大いに参考にするものである。にもかかわらず、辞書の中には不十分な意味記述やあまり使われない用例提示などが多々ある。使用頻度の低い用例提示などは、その動詞の意味の不適切な理解を招きやすく、不自然な表現を学ばせることになる場合もあると思われる。そこで本

稿では、移動動詞を例に、現行の日本語辞書の意味記述や用例提示を再検討し、韓国語辞書との対照を通じ、使用頻度に基づく新たな意味記述の試案を提示する。

1.2 李善姫（2004）による日本語の移動動詞の語彙の意味

李善姫（2004）では、実際の言語資料⁽²⁾に現れる日本語の移動動詞と〈出発点〉、〈経過点（経由点、経路）〉、〈到着点〉などの場所名詞句との結合頻度を調査し（総用例数 22,340 例）、その結合頻度からそれぞれの動詞の語彙の意味を明らかにした。その語彙の意味の側面をさらに分析すると、それぞれの移動動詞のもつ語彙の意味から移動動詞は次の表 1 のように大きく 5 つに分類できる。

表 1 李善姫（2004）による移動動詞の分類

		共通の意味		その類独自の意味	動 詞
出発志向動詞		出発の位置変化			はなれる
				目的地への移動	たつ, さる
				到着の位置変化, 経路動作	おりる
経過志向動詞	経由志向動詞	経過動作			すぎる, よぎる, こえる, くぐる
			到着の位置変化		ぬける, わたる
		経過動作	経路動作		とおる
					めぐる, つたう, まわる, たどる
			無方向性		ぶらつく, うろつく, さまよう
			到着の位置変化		くだる
			移動様態, ある方向への移動		はう, あるく, かける, およぐ, すべる
				移動様態, 目的地への移動	はしる

到着志向動詞	到着の位置変化		いたる, うつる, つく, おもむく, しりぞく
		(移動体が複数)	むらがる, あつまる, むれる
		(経路のヲ格と結びつく)	もどる, いく, かえる, くる
		(経由点のヲ格と結びつく)	はいる
		出発の位置変化 (経由点のヲ格と結びつく)	でる
		経路動作	あがる, のぼる
目的地志向動詞	目的地への移動		むかう
方向志向動詞	ある方向への移動	到着の位置変化	さがる
		経路動作, 到着の位置変化	すすむ
		移動様態, 経路動作, 目的地への移動	とぶ

表1に示した5つの動詞グループについて簡単に説明すると、例えば、〈出発志向動詞〉に分類されている「はなれる」「たつ」「さる」「おりる」は、実際の言語資料において、「その場をはなれる／東京をたつ／教室をさる／二階からおりる」のような出発の位置変化を表す用例が最も多い動詞である。このように主に出発の位置変化を表す動詞が〈出発志向動詞〉である。これらの動詞は出発の位置変化という共通の意味をもちつつも、それぞれ異なる独自の意味をも合わせもっており、「たつ」「さる」は「大阪へたつ／隣の部屋にさる」のように目的地への移動をも表すのである。さらに「おりる」は「1階におりる」のように到着の位置変化、「坂道をおりる」のように経路動作をも表すという語彙的側面をもっている。他の動詞グループも同様で、各グループの動詞は最も多く現れる共通の意味をもちつつも、それぞれ異なる意味の側面を合わせもっているのである。

以下では、現行の日本語辞書の意味記述と用例

を検討し、実際の言語資料における使用頻度から得た各動詞のもつ語彙の意味が反映されているかを考察する。そして、現行の韓国語辞書の場合を考察し、日本語の移動動詞を例に、使用頻度に基づく新たな意味記述の試案を提示する。

2. 現行の日本語辞書の意味記述や用例の再検討

2.1 検討する日本語辞書

本稿で検討する辞書は次の三冊である。これら三冊の辞書を選んだ理由は、まず、『広辞苑』は中型辞書として一般に多くの人が参考にする辞書であり、『新明解国語辞典』は小型辞書として、各動詞の結びつく格を提示している点で、学習者には非常に望ましい辞書だからである。上の二冊の辞書とは異なり、動詞のみを扱っている『日本語基本動詞用法辞典』は、動詞の結びつく格が示されていることから検討に加える。

表2 本稿で検討する日本語辞書

辞書	収録語数	編者	出版社	発行年	初版発行年
広辞苑（第六版）	24万語	新村出	岩波書店	2008年	1955年

新明解国語辞典（第六版）	76,500 語	柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田昭雄	三省堂	2005 年	1972 年
日本語基本動詞用法辞典（第六版）	728 語	小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹	大修館書店	1993 年	1989 年

2.2 日本語辞書の意味記述と用例の再検討

2.2 では、各辞書の意味記述や用例などについて考察を行う。

以下では、各辞書の語釈、用例、文型を示すが、本稿で考察するのは空間的移動と関係があるもののみで、動詞の順は表 1 の動詞グループ順である。番号などは当該辞書の番号に従う。当該動詞の見出し語がない場合は斜線で示す。なお、縦書きの

ものは横書きに改めた。

考察を行う際に、移動体の性質の違いについては特に述べないが、移動体が有情物の場合と無情物の場合とで異なる点が見られる場合は、移動体の性質について述べる。

2.2.1 出発志向動詞

出発志向動詞の意味記述を次の表に示す。

辞書 動詞	広辞苑	新明解国語辞典	日本語基本動詞用法辞典
はなれる	①くっついていたものが解けてわかれる。 ②遠ざかった位置にある。へだった所にある。	㊦〈なにか／なにか／／〉結んで・縛って）あったりくっついたりしてあったりする物が、ばらばらになる。㊧〈なにか／なにか／／どこ／／なにか／／／〉その物との間に、空間が置かれる。「五キロ離れた（＝隔たった）所・しばらく日本を一」	(1)それまでいた場所から遠ざかる。 《文型》[人・生き物・乗り物] {が／は} [所] {を／から} 離れる（例）子供が家を離れる・船が岸から離れる・列車が駅を離れる (2)それまで一緒だったものが別々になる。 《文型 a》[人・生き物] 複 {が／は} 離れる（例）姉夫婦は今離れて暮らしている 《文型 b》[人・生き物] と [人・生き物] {が／は} 離れる（例）親と子が離れて暮らしている。 《文型 c》[人・生き物] {が／は} [人・生き物・集団] {と／から} 離れる （例）彼女は母と離れて東京にいる。 (3)二つの間に距離・年齢などの隔たりがある。 《文型 a》[人・物・所] 複 {が／は} ([数値]) 離れる（例）二つの町は遠く離れている。 《文型 b》[人・物・所] と [人・物・ところ] {が／は} ([数値]) 離れる （例）私の家と彼の家は 2 キロ離れている 《文型 c》[人・物・所] {が／は} [人・物・所] {と／から} ([数値]) 離れる （例）静岡は東京から約 200 キロ離れている
たつ	④ある場所にあったものがそこから目立って動く。 ③身を起してそこを離れる。④まかる。退出する。	㊨(なにか／どこ／／) —そこを離れて、他へ移る（状態が認められる）。「食事の途中で何回も席を一（＝離れ	(2)それまでいた所を離れる、または、出発する。 《文型 a》[人・集団] {が／は} [所] {を／から} 立つ（例）首相は成田を立った

	⑤出発する。でかける。「朝早くー・つ」⑥鳥が飛びあがって去る。	る) / あす成田をー (= 出発する) / ー鳥, 跡を濁さず (= 他に移ろうとする水鳥は, 水を濁したり波を立てたりしないで, 静かに水面から去るものだ)	《文型b》[人・集団] {が / は} ([所] から) [所] {に / へ} 立つ (例) 首相は成田空港からアメリカへ立った 《文型c》【人】 {が / は} 【活動】 に立つ (例) 息子は今朝旅に立った
さる	(常時そこに存在するものが, 共に存在するものの意思・感情にかかわりなく) 移動する。③ある所・地位・状況から離れ, 他へ行く。移る。⑤へだたる。離れる。⑦距離がある。「京をー・ること一〇里」	○〈どこ・なにヲー〉 その場所から離れる。「一人去り二人去りして誰もいなくなる / 台風が日本をー / ー者は追わず (= 自分から離れて行く人は無理にひきとめない) / 江戸をー (= から隔たる) こと西に十里	
おりる	上から下への移動を示すが, 到達点に焦点をおく点で「さがる」と異なり, 目的・意図のある作用を示す点で「おちる」と異なる。①高下の位置・場所に着く。また, そのような状態になる。「遮断機がー・た」「幕がー・りる」(事件が終る意にも使う)	○〈どこカラどこニー / どこヲー〉 下の方へ向かって移動し, 低い位置に到達する。「山をー・鍵がー (= かかる)・幕がー (= ①閉じられる。①一続きの劇・物語・事件などが, そこで終わる)	(1)上から下へ移動する。 《文型a》[人・生き物・乗り物・物] {が / は} ([所] から) [所] {に / へ} 降りる (例) 健二は台の上から地面に降りた 《文型b》[人・生き物・乗り物・物] {が / は} [所] を降りる (例) 車が坂道を下りる

1) 「はなれる」

「はなれる」について、『新明解国語辞典』の場合、〈なににカラー / なににトー / どこ・なにヲー〉のように格との結びつきなどが明確にされており、かなり正確に記述されていると思われる。それに対して『広辞苑』は「はなれる」のもつ出発の位置変化の側面よりは状態の側面が前面に出ている。しかし、実際に言語資料を調べると、「はなれる」は出発の位置変化の意味で使われる頻度が高く、空間的移動を表す意味の使用頻度が抽象的な意味の使用頻度の約3倍で、空間的移動の意味で使われる用例の方が圧倒的に多い。したがって、辞書の意味記述において、空間的移動を表す意味や用法の方が先に記述される方が良いと思われる。上の二冊に対して『日本語基本動詞用法辞典』はかなり詳しく「はなれる」のとり〈文型〉

について記述している。ただし、「はなれる」は無情物が移動体の場合、他の動詞とは異なって、出発点のカラ格名詞のみならずヲ格名詞とも結びつく動詞であるにもかかわらず⁽³⁾、『日本語基本動詞用法辞典』に示されている文型にはそのようなことは示されていない。

2) 「さる」「たつ」

「さる」「たつ」については、『日本語基本動詞用法辞典』以外の辞書は二冊とも出発の位置変化のみに重点をおく意味記述や用例提示になっている。しかし、「さる」も「たつ」も出発の位置変化のみならず目的地へ向かっての移動をも表す動詞であり、それに対する記述や用例提示が必要であろう。さらに、無情物が移動体として現れないという点も重要な特徴であるので、それについて示すべきである。

3) 「おりる」

『新明解国語辞典』は表1に示した実際の使用頻度からみた「おりる」の語彙的意味の側面をかなり正確に示していると思われる。しかし、『広辞苑』には「遮断機がおりる」「幕がおりる」のような用例が提示されているが、実際の使用においては物名詞や抽象名詞が移動体として現れる用例はあまりない。また、有情物移動体の場合は、出発点か経路あるいは到着点を表す場所名詞句が必ず必要であるので、場所名詞句と結びついてい

ない用例だけでは「おりる」の意味記述としては不十分であると思われる。『日本語基本動詞用法辞典』は「おりる」のとり文型がよく示されている。しかし、有情物移動体の場合、出発点はカテゴリー名詞のみではなく、ヲ格名詞でも現れることは示されていない。

2.2.2 経過志向動詞

2.2.2.1 経由志向動詞

経由志向動詞の場合について考察する。

辞書 動詞	広辞苑	新明解国語辞典	日本語基本動詞用法辞典
すぎる	①ある所を越してさらに先へ行く。よぎる。また、ある距離を越える。越えて行く。「駅を一・ぎる」「その駅は一・きた」「四十キロを一・ぎる」	㊦〈どこヲー〉（進行するものが）ある時点や場所を踏△んで（むようにして）、他の地点や場所へ移△る（って行く）。「三十八度線を一」	(1)ある場所を通して、さらに進む。 《文型》[人・乗り物・自然現象]{が/は}[所]を過ぎる (例) 新幹線が熱海を過ぎる
よぎる	①前を通りすぎる。通りこす。通過する。②道のついでに立ち寄る。③よけて通す。避ける。④横切る。「道を一・る」	「(ふと) 通り過ぎる」意のやや改まった表現。「脳裏を一」	
こえる	①物の上を過ぎて行く。障害などをのりこえて行く。「国境を一・える」	〈どこ・なにヲー〉そこを通らなければ目的を達することの出来ない障害の上を、なんらかの方法で通って、向こうへ行く。「越えてはならぬ線/山(川・塀・壁)を一/ハードルを一(＝飛び越す)」	(1)ある場所・時期や障害となる事物を通り過ぎてその先へ行く。 《文型》[人・生き物・乗り物・物]{が/は}[所・時・物]を越える (例) 少女は峠を越えた
くぐる	①物のすきまをすりぬける。体をかがめて、物の下を過ぎる「のれんをくぐる」	㊦〈どこ・なにヲー〉（身をかがめて）物の下や狭い所を通り抜ける。「門（難関）を一」	
ぬける	①つらぬく。とおる。「藪から村へー・ける裏道」④そこを通して向う側へ出る。「トンネルを一・ける」	㊦〈なに・どこヲー〉通路（何かの中）を通して、向こう側へ出る。「トンネルを一/裏道を一（＝通る）」	(5)ある場所を通して向こう側へ出る。または、道やトンネルなどが向こう側に通じる。 《文型 a》[人・乗り物]{が/は}[所]を抜ける (例) 僕は森を抜けて野原へ出た・トラックがトンネルを抜けた 《文型 b》[道]{が/は}〔[所]{に/へ}〕抜ける (例) このトンネルは海岸に抜ける・この道は駅前へ抜ける

わたる	①水の上を越えて向うへ行く。②渡航する。渡航して来る。③上空を移動する。④別の所へ移る、あるいは来る。「勤め先を転々と一・る」⑤ある場所を通り過ぎる。橋・廊下などを通して向うへ行く。⑥それを越して向う側へ行く。「線路を一・る」	㊦<(なにデ) どこヲ / どこニ> そこ (の上) を通って向こう側に達する。「海を一 / 仏教が渡って来た / 鳥が南 (北) へ一 / 川を一 / 道を一」	(1)ある所を通して一方の側から他方の側へ移動する。 《文型》[人・生き物・乗り物] {が / は} [所・物] を ([所] から) ([所] {に / へ}) 渡る (例) 老人が大通りを渡っている・渡し舟で向こう岸に渡る (2)海や国境を越えて遠方の国や場所に移動する。 《文型》[人・生き物・物・事] {が / は} ([所] から) [所] {に / へ} 渡る (例) 祖父は50年前にブラジルに渡った
とおる	㊦通過する。①(ある場所を) 過ぎて他方へ行く。通行する。「門前一・る」②通り抜ける。「のどを一・る」	㊦<(どこヲ) 一 / (どこ・なにニ> その場所 (箇所) を経て先に進む。「岩のすき間を通して水が流れる / 町中 (橋・横道) を通って駅に行く / 門 (受付) を通って中に入る / 人や車が一道」	(2)ある場所を進んでいく。 《文型》[人・生き物・乗り物] {が / は} [所] を通る (例) 小学生が道を通る

1) 「すぎる」「よぎる」「こえる」「くぐる」

経路点の名詞句とのみ結びつく「よぎる」「すぎる」「くぐる」「こえる」について、三冊の辞書はいずれも経路点を通る意味記述や用例が記述されている。

2) 「わたる」「ぬける」

「わたる」に対しては、【どこヲ／どこニ+わたる】の構造をとる動詞として『新明解国語辞典』に記述されているし、『日本語基本動詞用法辞典』も到着の側面を示している。しかし、『広辞苑』には経路点と結びつく用例のみが提示されており、「わたる」が経路動作のみならず到着の位置変化をも表す動詞であることが明確に示されていない。

ところが、「わたる」と同じく経路動作と到着の位置変化を表す動詞である「ぬける」について、『日本語基本動詞用法辞典』以外の辞書は【どこヲ+ぬける】の文型が主に記述されていて、経路点を通る側面を強調して示し、到着の位置変

化についての記述はあまりなされていない。『日本語基本動詞用法辞典』に《文型 b》で到着の位置変化を表すようなものが示されているが、有情物移動体の空間的移動表現ではない。「ぬける」は実際の使用頻度において有情物移動体が経路点を通る例の方が多く使われるが、到着の位置変化の使用例も見られる動詞であり、有情物移動体の到着の位置変化を表す例も示すべきであろう。

3) 「とおる」

「とおる」については、『新明解国語辞典』が経路点と経路を意識した用例をあげているようにみえるが、他の辞書は経路点、経路と結びつくことについての記述があまりはっきりしていない。しかし、「とおる」は経路点、経路⁽⁴⁾の両方の場所名詞句と結びつくことができる動詞であり、それを示す用例をあげる必要があると思われる。

2.2.2.2 経路志向動詞

経路志向動詞について考察しよう。

辞書 動詞	広辞苑	新明解国語辞典	日本語基本動詞用法辞典
めぐる	②周囲をぐりとまわる。特に行道する。「池を一・る」⑤あちこちを歩きまわる。「名所旧跡を一・る」	㊦ぐるりとひと回りして、元へもどる。「因果は－／一年月」㊦〈どこヨ－〉目指す所を次つぎと訪ねて廻る。「名所旧跡を－旅／知人の家を巡り歩く」	
つたう	①ある物に沿って行く。ついて移る。「涙が頬を一・う」②点在するものを次々とたどって行く。	点在（連続して存在）する物に沿って離れず、至近距離を次から次へと移動する。「大粒の涙が頬を一／瓶の口を伝って牛乳が垂れる」	(1)ある物から離れないようにして、それに沿って移動する。 《文型》[人・生き物・液体] {が／は} [物・所] を伝う (例) 猫は屋根を伝って逃げた
まわる	②直線的に進まず、曲線を描いて進む。「池のまわりを一・る」	㊦〈(なにデ) どこ・なにヲ－〉物が円形のふちをたどるように移動する。「月が地球を一／湖(のまわり)を一(＝湖に沿って一周する／持って回った表現	(2)何かの周囲をぐりと移動して、もとに戻ることを繰り返す、または、順送りの物事に当たる。 《文型》[人・生き物・天体] {が／は} [物／所] を回る(例) 私はジョギングしながら池を回った
たどる	③道や川にそって進む。「山路を一・って行く」	〈なにヲ－〉㊦一定の道筋に沿ってある方向に向かって進んで行く。「話の筋道を一／同じような経過を一／家路を一(＝帰宅のコースをとる)／地図を辿って捜し当てる」	
ぶらつく	②ぶらぶらと歩きまわる。徘徊する。「銀座を一・く」	㊦どこに寄る(行く)というあても無く、ゆっくりと歩く。「銀座を一」	
うろつく	目的も定まらず行ったり来たりする。そのあたりをあてもなく歩き回る。うろうろする。「現場を一・く」	ある範囲内をぶらついていて、立ち去らずにいる。(違和感・不審感をもって見られることが多い)	
さまよう	①うろうろする。いったりきたりする。「生死の境を一・う」②ところを定めず歩く。あちらこちを歩く。さすらう。「荒野を一・う」	目標を見失うとか正常の感覚を無くすとかしたために、程遠からぬ一帯の地域を行ったり来たりする。「ふぶきの中を一・生死の境を一・飢餓線上に一：返品率は今や四十パーセント前後をさまよっている(＝上下している)」	
くだる	①場所・程度などが高い所から低い所へ一気に移る。「山の頂上から一・る」	〈どこヲ－／(どこ・なにニ)〉(斜面に沿うなどして) 高い位置から低い位置へ向かって移動する。(広義では、川の上流から下流の方へ移ることや、昔、都から地方へ行ったことを指す)「山道を一」	(1)高いところから低い所へ移る。 《文型》[人・生き物・乗り物] {が／は} ([所] から) [所] を ([所] {に／へ}) 下る (例) 順子は坂を下った

はう	①手と足とを地につけて進む。はらばう。「地を一・すすむ」②獣・虫・貝などが伝うようにして前へ進む。「みみずが一・う」	〈どこ・なにヲー / どこ・なにニ〉○腹部を・地面(床)につけるようにして、手とひざ・足で少しずつ進む。「這ってでも目的地まで行く / 底を一ような」	(1)うつぶせの状態手足、または、胴体を使って移動する。 《文型》[人・集団・生き物]{が / は}[所]を([所]から)([所]{に / へ})はう (例) 赤ん坊が床をはう
あるく	①一步一步踏みしめて進む。歩行する。あゆむ。「一・いて帰る」	〈どこヲー〉(常に、左右いずれかの踵を地に着けた状態で)足を交互に前へ出して、進む。(広義では乗物を使っての移動や何かをして回ることを指す)「駅から歩いて三分の距離 / 犬も歩けば棒にあたる」	(1)足を使って移動する。 《文型》[人・生き物]{が / は}([所]を)([所]から)([所]{まで / に / へ})歩く (例) 息子が始めて歩いた・猫が屋根の上を歩いている
かける	①馬に乗って走る。②はやく走る。疾走する。「後ろから一・けて来た者がある」	〈どこヲー / どこマデー〉(はずみをつけるようにして足を動かし)目的地まで(他より)速く行こうとする。「野を一馬」	(1)早く走る。 《文型》[人・生き物]{が / は}([所]から)([所]を)([所]{に / へ / まで})駆ける(例) 馬が大通りを向こうへ駆けて行った
およぐ	①手足やひれを動かし、水中・水面を進む。水泳する。遊泳する。「岸に向かって一・ぐ」	○〈どこヲー / どこマデー〉(人や魚などが)体を水面(水中)に浮かせ、手足(ひれ)を動かして進む。「海で一」	(1)水面・水中で手足やひれなどを動かして進む。 《文型》[人・生き物・魚]{が / は}([所]{で / を})泳ぐ(例) 女性が一人でドーバー海峡を泳いだ
すべる	①物の上をなめらかに移行する。物の間を滞りなく通る。「スキーで雪山を一・る」	○〈どこヲー〉接触を保ちつつ、物の面を抵抗なく速く移動する。	(1)なめらかに移動する 《文型》[人・物・乗り物]{が / は}[所]を([所]から)([所]{に / へ})滑る(例) 彼は新雪の上をゲレンデからふもとまで滑った
はしる	①両足を早く動かして移動する。かける。「五〇メートルを全力で一・る」	○〈(どこヲー) / (どこニ)〉(人間・鳥獣が)足で地面を蹴るようにして早く移動する。「遅れそうなので駅まで走った」	(1)足で早い速度で進む。 《文型》[人・生き物・乗り物]{が / は}([所]を)([所]から)([所]{に / へ / まで})走る (例) 生徒たちは学校から海岸まで5千メートルを走る。バスは表通りを走る。

- 1) 「めぐる」「つたう」「まわる」「たどる」
「ぶらつく」「うろつく」「さまよう」

これらの動詞の場合は、表1に示したこれらの動詞のもつ経路を通して経路動作という語彙的意味が記述されている。ただし、「つたう」についてはやや不十分である。『日本語基本動詞用法辞典』以外は「つたう」の用例に無情物移動体の例しかない。確かに実際の用例をみても、「つ

たう」は有情物移動体より無情物移動体の用例の方が多くみられる。しかし、有情物移動体の用例もあり、その場合、終止形で現れるのではなく、「つたって」のようにテ形で表される例が多く見られ、無情物移動体の場合とは異なる面がある。『広辞苑』や『新明解国語辞典』のような記述からは、学習者は「彼は山道をつたった」のような文をつくることもあるだろうが、実際には、「彼

は細い廊下をつたって本堂に行った」のように使うことが多いのである。「彼は山道をつたった」のような誤用を防ぐためには、「つたう」は有情物移動体の場合、終止形ではあまり使われないことを記述すべきである。

2) 「くだる」

経路動作と到着の位置変化をとる動詞である「くだる」について、三つの辞書にはいずれも足りない面が見られる。『広辞苑』では、出発点の名詞句と結びついた「山の頂上からくだる」という用例が、『新明解国語辞典』では経路の名詞句と結びついた「山道をくだる」という用例のみが記述されている。これらの記述や用例提示からすると、「くだる」は出発点か経路の名詞句と結びつく動詞のように見える。『新明解国語辞典』『日本語基本動詞用法辞典』には括弧の中に到着点の名詞句と結びつくことができるということは示されているが、それは「くだる」が到着点の名詞句と結びつく場合、常に経路の名詞句と共に起する場合であるようにも思われる記述である。しかし、「くだる」の実際の使用を見ると、経路を通る動作のみならず単独で到着の位置変化をも表す動詞であり⁽⁵⁾，“高いところから低いところへ移動する”という意味記述に、経路を通る動作と到着の位置変化を表すことを示す両方の用例提示が必要

である。

- 3) 「はう」「あるく」「かける」「およぐ」「すべる」「はしる」

移動様態を表す「はう」「かける」「あるく」「はしる」「およぐ」「すべる」については、三冊とも場所名詞句と結びつかない用例や経路の名詞句と結びつく例を示し、これらの動詞のもつ語彙的意味を表していると思われる。特に『日本語基本動詞用法辞典』はこれらの動詞が場所名詞句と結びつかずに現れることもできることを示しており、他の移動動詞とは異なることを示している。その点はよいのだが、これらの動詞が「二格／へ格」名詞と結びつくこともできることを示しているのは問題である。これらの動詞の中で「はしる」は、「学校に走った」のように目的地⁽⁶⁾の「二格／へ格」名詞と結びつくことができるが、それ以外の移動様態を表す動詞（「はう」「あるく」「かける」「およぐ」「すべる」）は「*学校に歩く」のような結びつきは難しく、「はしる」以外の移動様態を表す動詞が目的地の「二格／へ格」名詞と結びつく場合は、「学校に歩いていく」のように「～テイク／テクル」形になることが多いのである。

2.2.3 到着志向動詞

到着志向動詞の辞書の意味記述について示す。

辞書 動詞	広辞苑	新明解国語辞典	日本語基本動詞用法辞典
いたる	② 行きつく。到着する。 「日没前、目的地に一・る」	段々進んで、必然的に目的の所（その状態）にま達する。「福島を経て仙台に一（＝達する）」	
うつる	① 物がある場所から他の場所へ置きかわる。移動する。 「東京から京都へ一・る」	〈(なに・どこカラ) なに・どこニ〉（物事の位置・状態が、他の位置・状態に）変る。「予定した行動に一／焦点が参議院に一／重点・（関心）が一」	(1) 人や物が今までとは違う場所へ動く。 《文型》[人・組織・物・位置] {が／は} [所] から [所] {に／へ} 移る (例) 左のはじにいた人が右へ移った

つく	③あるものが他のところまで及び到る。①到着する。届く。「目的地に一・く」「荷物が一・く」	㊦〈どこニ一〉（移動した結果）目的の場所まで行き、そこに居る（有る）。「船が港に一／夕方宿に一／荷物が一／帰一」	(1)ある場所から移動して他の場所に到達する。 《文型》[人・生き物・乗り物・物]{が／は}[所]に着く(例)手紙がやっと先方に着いた。弟が駅に着いた
おもむく	①その方へ向かって行く。「広島に一・く」	㊦〈どこニ一〉のびきならない用事などでどこかへ向かう。「遭難現場に直ちに一」	
しりぞく	①後へさがる。	㊦〈どこヨ一／(どこカラ)どこニ一〉(前進をやめ)あとへ下がる。後退する。「一歩一／退いて(=思った事をすぐには移動に移さずに)考えるに」⇔進む	
むらがる	多くのものが一つ所に集まる。むれをなす。「甘い蜜に一・る」「ファンが一・る」	㊦〈どこ・なにニ一〉密集した一段となって、一カ所に集まる。「電線に一鳥／一労働者」	
あつまる	多くのものが一つ所に寄りあう。むらがる。また、集中する。「視線が一・る」「同情が一・る」	㊦〈(どこ・だれカラ)どこに一〉本来離れた場所に在る(居る)二つ以上のものが一カ所に移動して行く(来る)。「一堂に一／寄付金がかかり集まった」	(1)人・物事がある場所に寄ってくる。 《文型a》【人・集団・組織・生き物・物】{が／は}【所】から【所・物】集まる(例)生徒が校庭に集まった・激励のはがきが世界各地から集まった
むれる	一所に集まる。むらがる。「一・れて飛ぶ鳥」	そこに集まっているものが集団をなした状態で居る。	
もどる	①ある場所からいったん移ったものが、もとへかえる。あとへ引きかえす。③家へかえる。「只今一・りました」	㊦〈どこ・なに・だれニ一〉他の所に移動したものが、進む方向を逆にして元の所へ向かう(まで移動する)。「自分の席に一／この辺で戻った(=引き返した)方がいい」	(1)人や生き物がもといた場所に帰る。 《文型》[人・生き物]{が／は}〔所〕から〔所〕に戻る (例)父は6時ごろ家に戻った (2)来た道を通して引き返す。 《文型》[人・生き物]{が／は}[道・所]を戻る(例)長い石段を戻る
いく (ゆく)	①現在いる地点から出発して向うの方へ進行・移動する。⑦前方へ向って進む。離れ去る。④目的地に向かい進む。出向く。「外国へ一・く船」⑦目的の所に到達する。②ある所を通過して進む。⑦通り過ぎる。通行する。「道一・く人」	㊦〈(どこカラ)どこ・なにニ(なにデ)一／どこヨ一〉その場所から、他の場所へ移動する(進む)。「一足先に一／先頭(わが道)を一／行き着く所まで一／学校へ(買物に)一」	(1)目的地へ向かって移動する。 《文型》[人・集団]{は／が}〔所〕から〔所〕{に／へ}行く (例)隣の部屋に行く (3)ある場所を移動する。 《文型》[人・集団・生き物・乗り物]{は／が}[所]を行く (例)その人はこの道を行きました
かえる	②事物・事柄がもとの所・状態・人などへもどる。①もとあった所へもどる。折り返す。立ち返る。「忘れ物が一・る」「土地はあの人の手に一・るそうだ」「毎度同じ答えが一・ってくる」	㊦〈(どこカラ)どこニ一〉(一時的に)他の場所にいる人が出発した(本来身を置くべき)所に向かって行く。「そろそろ会社から家に一(=㊦会社を出る㊦家に行き着く)時間だ／一べき家がない／船が港に帰ってきた」	(4)人や乗り物などが自分の家・会社・国など、もといた所に戻る。 《文型》【人・生き物・乗り物】{が／は}【所】を(【所・活動】から)【所】{に／へ}帰る (例)恵子は夜道を学校から家へ帰った

くる	①⑦人・事物がこちらに向かって近づく。「客がくる」「手紙がくる」「電車がくる」	㊦<(どこ・なにカラ) どこ・なにニ> 何かが空間的・時間的に、自分の居る方へ向かって近づく(移動して、そこに現在見られる)。「手紙が一(=届く)/今日はA君が一(=来訪する)はずだ」	(1)話し手、または、話題になっている人・物・場所に向かって移動する。 《文型》【人・生き物・物】{が/は}{【所】から}{【所】{に/へ}来る (例) この鳥はシベリアから日本に来る・父のところに客が来た
はいる	①外から中に移る。すっかり中におさまる。いる。「電車がホームに一・る」「大学に一・る」「月が海に一・る」「勉強に身が一・る」「鞆に一・るだけ入れる」	㊦<(どこカラ) どこニ> (外から) 区切られた空間(の中)まで移り進む。「汽車が一(=入構する)」	(1)外部からある場所の内部へ移動する。 《文型》[人・生き物・乗り物・物]{が/は}{【所】から}{【所】{に/へ}入る (例) 船が港に入る、猫が窓から入る
でる	②内から外に移る。①外部に行く。去る。「庭に出る」「家を出る」②出発する。出立する	㊦<どこ・なにカラ・どこ・なに一/ どこ・なにヨ> 境や限界を越える(て外へ行く)。「足が線から一・ふろから一(=あがる)・部屋から一歩も外へ出ない・三歩前に一(=進む)」	(1)中から外に移動する。 《文型a》[人・生き物・乗り物]{が/は}{【所】から}{【所】{に/へ}出る (例) 私は部屋から廊下に出た 《文型b》[人・生き物・乗り物]{が/は}{【所】から}{【所】を出る(例) 私は午前8時に裏口から家を出た・門を出る・部屋を出る (3)ある場所に行き着く。 《文型》[人・乗り物・川・道]{が/は}{【所】から}{【所】{に/へ}出る (例) 私たちは海岸に出た
あがる	①そのものの全体または部分の位置が高い方に向かう。また、上方に位置する。①上方に向かう。「屋根に一・る」	㊦<(どこカラ) どこニ一/ どこヨ> 低い位置から(下の方)から高い位置(上の方)へ移った状態になる。「階段を一(=のぼる)・ふろから一(=出る)・おかに一」	(1)下から上に移動したり、位置が高くなる。 《文型a》[人・生き物]{が/は}{【所】から}{【所】{に/へ}上る (例) 子供たちは一階から三階に上った。 《文型b》[人・生き物・乗り物]{が/は}{【所】をあがる(例) 階段をあがる
のぼる	①高い所へ行く。「空に日が一・る」「木に一・る」	㊦<(どこ・なにカラ) どこ・なにニ一/ (どこ・なにカラ) どこ・なにヨ> (斜面に沿うなどして) 低い位置から高い位置へ向かって移動する。「富士山に一/階段を一」	(1)移動して高いところに達する。 《文型a》[人・組織・生き物・乗り物]{が/は}{【所・物】{に/へ/まで}登る (例) サルが木に登る 《文型b》[人・組織・生き物・乗り物]{が/は}{【所】を(【所】から){【所】{に/へ}上る(例) 車が急な坂道を上った

1) 「いたる」「つく」「おもむく」「むらがる」「むれる」

記述されていると考えられる。

2) 「うつる」

「いたる」「つく」「おもむく」「むらがる」「むれる」についてはそれぞれの動詞の語彙の意味が

「うつる」については、『新明解国語辞典』では「予定した行動にうつる」のように、空間的移動

ではない抽象的な意味を表す用例である。しかし、実際には抽象的な意味より「彼は居間に移った」のように空間的移動を表す用例の方が多いため、空間的移動を表す例を先に示す方が良いと思われる。

3) 「しりぞく」

「しりぞく」の場合は、『新明解国語辞典』に場所名詞句との結びつきがあるということは示されているが、提示されている用例には場所名詞句は現れていない。しかし、実際には到着点との結びつきが多い動詞であり、そのような例も示した方がより良いだろう。

4) 「あつまる」

「あつまる」の場合、三冊とも「一ヶ所に集中する」という意味記述は共通しているが、『日本語基本動詞用法辞典』以外の辞書に提示された用例の移動体は抽象名詞である。ところが、使用頻度からして、有情物移動体の方が圧倒的に多く、抽象名詞や物名詞などが移動体として現れる例は非常に少ない。用例を提示する際にも使用頻度が非常に少ない抽象名詞の移動体の用例より、「学生たちは運動場に集まった」のような使用頻度の高い有情物移動体の用例を出すべきであろう。

5) 「もどる」

「もどる」の場合は、主に到着の位置変化を表す動詞でありながら、結合頻度は低い、経路とも結びつく動詞である。ところが『日本語基本動詞用法辞典』以外の辞書にはこのような側面があまり現れていない。経路のヲ格名詞と結びつくことができるということは、到着の位置変化を表す他の動詞との異なる側面なので、経路のヲ格名詞と結びつくことを示すべきである。

6) 「いく」

「いく」については、到着の位置変化の側面と経路のヲ格名詞と結びつく側面を示している。

7) 「かえる」

「かえる」について、『広辞苑』は「忘れ物がかえる」のような用例を出しているが、「かえる」の実際の使用を見ると、移動体として物名詞や抽象名詞が現れる場合より移動体が有情物である空間的移動の方が圧倒的に多い⁽⁷⁾。使用頻度からみる語彙の意味の重点からすると、有情物移動体の空間的移動の例を第一に示すのが効果的であると思われる。

8) 「くる」

「くる」について、三冊の辞書とも到着の位置変化を表す側面のみが示されており、経路のヲ格名詞と結びつく側面は示されていない。「くる」が経路のヲ格名詞と結びつくという性質は、到着の位置変化を表す他の動詞とは異なる語彙の意味の側面であるので示すべきである。

9) 「はいる」

『広辞苑』も『新明解国語辞典』も「はいる」が経由点のヲ格名詞と結びつくことについて触れていない。『日本語基本動詞用法辞典』では経由点のヲ格名詞と結びつくことを示すような記述をしているが、経由点として現れる場合、カラ格名詞とヲ格名詞の両方の名詞句で表されるということについては触れられていない。

10) 「でる」

「でる」について、三冊とも出発の位置変化、到着の位置変化を表す動詞であることが示されている。しかし、「でる」が経由点のヲ格名詞と結びつく動詞であることについてはあまり触れていない。特に『日本語基本動詞用法辞典』の場合は、【《文型 a》[人・生き物・乗り物] {が / は} [所] から ([所] {に / へ}) 出る】(例)「私は部屋から廊下に出た」と【《文型 b》[人・生き物・乗り物] {が / は} ([所] から) [所] を出る】(例)「門を出る・部屋を出る」のように示されているが、

このような記述からは「部屋から出る」と「門を出る」「部屋を出る」が同じ出発の位置変化として理解されるだろう。しかし「門を出る」は「部屋を出る」とは異なって、経由点を表すので、経由点の場合と出発点である場合とをはっきりと示すべきであろう。

11) 「あがる」

「あがる」は、『新明解国語辞典』『日本語基本動詞用法辞典』では「どこニ／どこヲ」の到着点、経路の名詞句と結びつくことを示しているが、『広辞苑』の場合は「あがる」の到着の位置変化の側面を表す用例のみをあげている。さらに「あがる」の意味記述が「上方に向かう」とされているが、この意味記述では正確な意味記述にならないと思われる。「あがる」が上の方向への移動を表すのは確かであるが、「むかう」の結びつく「二格／へ格」名詞は、到着点を表すのではなく、目的地を表すので、到着の位置変化までは含まない。したがって経路を通る動作以外に到着の位置

変化を表す「あがる」の意味記述に「むかう」が使われると少し異なる意味を表すことになるだろう。

12) 「のぼる」

「のぼる」については、『新明解国語辞典』『日本語基本動詞用法辞典』共に「のぼる」の動作の側面と到着の位置変化の側面を記述していると思われる。特に『新明解国語辞典』の場所名詞句との結びつきや意味記述、用例提示は、正確な「のぼる」の語彙の意味を示している。それに対して、『広辞苑』の場合は、用例も到着の位置変化のみを示しており、経路を通る動作の側面はうかがうことができない。動作の側面を表すためには、「坂をのぼる／階段をのぼる」のような用例も記述した方がいいだろう。

2.2.4 目的地志向動詞

目的地志向動詞は「むかう」一つである。

辞書 動詞	広辞苑	新明解国語辞典	日本語基本動詞用法辞典
むかう	②ある場所や方向を目指して進む。また、ある状態に近づく。「目標に一・て進む」「快方に一・う」	㊦<(どこ・なにカラ) どこ・なにニ> (障害などを排除して) 目的地の(目標とする) 方向に進む。「東京を発ってパリに一 / 出口に向かって人が殺到する / 北へ一船 / 風に向かって歩く / 勇敢に敵に向かって行く / 勝利に向かって一歩前進する」	(3)ある方向を目指して移動する。《文型》【人・生き物・乗り物・物】{が / は} (【所】から) 【人・自然現象・物・方向・所】{に / へ} 向う (例) 選手はゴールに向かって全力で走った・東京に向かう

まず、「むかう」に対する辞書の記述をみると、三つの辞書とも「むかう」が「二格／へ格」名詞と結びつくものの、到着の位置変化を表すのではなく、目的地へ進むことを表すことを示す記述となっており、適切であると思われる。ただし、「むかう」の結びつく「二格／へ格」名詞が到着点で

はなく、目的地を表すということを明確に記した方が良いだろう。

2.2.5 方向志向動詞

方向志向動詞の意味記述を次に示す。

辞書 動詞	広辞苑	新明解国語辞典	日本語基本動詞用法辞典
さがる	②前から後へ位置が 変る。①後の位置へ 行く。すさる。「一 歩一・った所で見物 する」	㊦<(どこ・なにカラどこ・なにニ)>/<(ど こヲ)一> 高い位置(程度・段階)から低 い位置(程度・段階)へ移った状態になる。 また目立つ位置から目立たない位置へ移し た状態になる。「増水した川の水位が一/ 歩後ろへー(=しりぞく)」	(3)それまでいた部屋から退出する、 または、後ろへ移動する。 《文型》【人】{が/は} (【所】{から /を}) (【所】{に/へ/まで}) 下 がる (例) 妻が客間から居間【台所】に 下がった・後ろへ下がる・一步下がる
すすむ	①前へ出る。前へ行 く。進行する。前進 する。「三步前へ・ む」	㊦<(どこ・なにカラ) どこ・なにニ> 前 に向かって出る。また、先へ動いたり行っ たりする。「山道を一步前へー/行列が一	(1)ある物が前の方に動いたり、移動 したりする。 《文型》【人・組織・生き物・乗り物・ 物】{が/は} (【道・所】を) (【所】 から) 【所】{に/へ} 進む (例) 新入生が校門から講堂に進ん だ・象の群が草原を進む
とぶ	①大地から離れ空に 上がる。高く舞いあ がる。空中を移動す る。「滴が一・ぶ」 ③空中を通り、離れ た所に達する。動き 出す時の強い力で遠 い所までゆく。「球 は場外まで一・んだ」 「野次が一・んだ」	㊦<(どこカラ) どこニー/どこヲ一> (地 面や元の場所から離れて) 空中を(早く) 移動する。「あらしをついて一飛行機/冬 になると白鳥が飛んでくる湖/午後の便で ハワイに一/ボールが遠くまで一/矢が どこからか飛んで来た/話を聞いて、飛ん で(=大急ぎで)帰る」㊦<どこ・なにヲ 一> はずみをつけて、身を空中に躍らせたり 何かを渡ったり(越えたり)する。はね る。「うれしくてびよんびよん一子供/階 段を飛んでおりる/小川を飛んで渡る」	鳥。昆虫。飛行機。物などが空中を 移動する。 《文型》【人・生き物・物】{が/は} (【所】を) (【所】から) (【所】{に /へ}) 飛ぶ (例) 飛行機が空を飛ぶ・ボールが 外野席へ飛んだ

1) 「さがる」

「さがる」について、『広辞苑』は「後方に移動する」という意味記述とともに「一步さがる／三步さがる」という用例を出している。確かに実際の使用にもこのような用例が多く見られるが、「すぐ兵をまとめ、はるか後方にさがり、そこで戦後処置をした。(小説『国盗り物語』より)／私たちは、茶の間へさがって、炬ばたで姉が淹れてくれた茶を飲んだ(小説『忍ぶ川』より)」のように方向や到着点の「二格／へ格」名詞と結びついて現れる例の方が多く、そのような点について示すべきである。

2) 「すすむ」

「すすむ」については、『広辞苑』は前方移動を

する動詞であることを示し、「さがる」と同様に「三步前へすすむ」のような例を出している。「すすむ」は方向や到着点と結びついた用例が最も多いが、さらに経路のヲ格名詞と単独で結びつく用例もみられる。『日本語基本動詞用法辞典』以外の辞書からすると、「すすむ」が経路のヲ格名詞と結びつく側面はあまり表されていない。『日本語基本動詞用法辞典』にも「すすむ」が経路のヲ格名詞と結びつくことを括弧つきで示されており、「すすむ」が単独で経路のヲ格名詞と結びつくことをあまり積極的に示されていない。

3) 「とぶ」

「とぶ」の場合は、『新明解国語辞典』『日本語基本動詞用法辞典』ともに、「とぶ」の語彙的意

味の多面性を示していると思われる。一方、『広辞苑』には物名詞や抽象名詞を移動体とする用例が載っている。しかし実際の使用において、「とぶ」は物名詞や抽象名詞より有情物が移動体として現れる場合が多く見られるので、空間的移動の意味記述の場合は、有情物移動体の用例が優先されるべきであると思われる。

2.2.6 現行の日本語辞書の意味記述・用例提示に対する問題点

以上、現行の三冊の辞書の移動動詞に関する意味記述や用例提示について考察を行った。多くの部分が本稿で考察したことと共通するが、次のような点において問題点が指摘できる。

- 1) 実際の使用頻度に基づく記述が充分にされていない。
- 2) 多側面の語彙的意味をもつ動詞の語彙的意味の側面があまり反映されていない。
- 3) 文型を示し、それぞれの動詞の結びつく格を表しているが、それがどのような意味をも

つものであるかは示されておらず、動詞の語彙的意味を把握することが難しい。

3. 現行の韓国語辞書の意味記述や用例の再検討

2節で日本語辞書の意味記述や用例について考察したが、それでは、韓国語辞書の場合はどうか。以下では、韓国語辞書について考察を行う。

3.1 検討する韓国語辞書

本稿で検討する韓国語辞書は次のとおりである。これら三冊の辞書を選んだ理由として、『표준국어대사전 (標準国語大辞典)』は動詞の結びつく格が示されている大型辞書であり、『동아새국어사전 (東亜新国語辞典)』は小型辞書として多く使われ、『연세한국어사전 (延世韓国語辞典)』はコーパスを用い、実際の使用頻度を調査し、出現頻度が14回以上の単語のみを見出し語としている。そして、動詞の場合、それぞれの動詞の取る格などが示されていることから検討に加える。

表3 本稿で検討する韓国語辞書

辞書	収録語数	編者	出版社	発行年
표준국어대사전 (標準国語大辞典)	50万語	국립국어원	두산동아	1999年
동아새국어사전 (第5版) (東亜新国語辞典)	14万7千語	두산동아 사서편집국	두산동아	2003年 (初版 1989年)
연세한국어사전 (延世韓国語辞典)	5万語	연세대학교 언어정보개발원	두산동아	1997年

3.2 韓国語辞書の意味記述と用例

韓国語については、日本語の場合、考察対象とした動詞の中から、「떠나다 (発つ)」「뛰다 (走る)」「가다 (行く)」「오다 (来る)」「모이다 (集まる)」を例に、各韓国語辞書の意味記述や提示

された用例を再検討する。以下では、各辞書の語釈、用例、文型を示すが、本稿で考察した空間的移動と関係があるもののみをあげる。また、提示されている用例が多い場合、同じ文型をとる用例は一つのみをあげる。

辞書 動詞	표준국어대사전 (標準國語大辭典)	동아새국어사전 (東亞新國語辭典)	연세한국어사전 (延世韓國語辭典)
떠나다	①【…으로】 있던 곳에서 다른 곳으로 옮기다. ㉠ 먼 곳으로 떠나고 싶다 / 그는 유턴으로 떠났다. ②【…에서 / 에게서】 【…을】 다른 곳 이나 사람에게 옮겨 가려고 있던 곳이나 사람들한테서 벗어나다. ㉡ 고향에서 떠나다 / 서울에서 떠나다. / 우리는 유홍가가 밀집해 있는 이 동네에서 떠나기로 하고 집을 구하러 다녔다. ㉢ 그는 직장을 구하기 위해 고향을 떠났다.	①자리를 옮기려고 뜨다. ㉠ 자, 떠나세. / 정은 고향을 떠나다. ②목적지를 향하여 가다. ㉡ 서울로 떠나다.	【Ⅰ】 (1)이 (2)를 떠나다 ①다른 데로 가려고 있던 데에서 옮겨가다. 멀어지다. (1)유정명사 (2)장소명사 ㉠ 이런 동네에서 떠나자는 아내의 불같은 성화로 집을 내 놓았다. ②(무엇에) 그대로 머물러 있지 않다. (1)사람명사 (2)학교・교단・직장…㉡ 집을 떠나 본 이는 고향의 참뜻을 안다. ⑤(어떤 일을 하러) 나서다. (2)피난・사냥・휴가…㉢ 골방에 문을 잠가 놓은 채 들어앉아 있거나, 훌쩍 여행을 떠나 버린다. 【Ⅱ】 (1)이 (2)로 떠나다. 있던 데에서 다른 데로 가다. (1)유정명사 (2)장소명사 ㉠ 윤지숙이 나와 차 뒤켠 트렁크에 그 가방을 싣고는 어디론가 떠났습니다.
뛰다	【Ⅰ】 【…으로】 (‘…으로’ 대신에 ‘…을 향하여’ 가 쓰이기도 한다) ①발을 뭉치 재게 움직여 빨리 나아가다. ㉠ 그는 차에서 내리자마자 집으로 마구 뛰었다. 【Ⅲ】 【…을】 ①어떤 공간을 달려 지나가다. ㉡ 나는 너무 무서워서 골목길을 마구 뛰었다.	【Ⅰ】 ①빨리 내닫다. 힘껏 달린다. ㉠ 힘껏 뛰어라.	【Ⅰ】 (1)이 뛰다 ③빨리 달린다. (1)유정명사 ㉠ 차를 내려 승혜는 뛰기 시작했다. 【Ⅱ】 (1)이 (2)를 뛰다 ①(어떤 공간 위를) 달려 지나다. (1)유정명사 (2)장소명사 ㉡ 그는 뜨거운 여름 열기 아래서 신흥 도시의 산업도로변을 뛰고 있었다.
가다	【Ⅰ】 【…에 / 에게】 【…으로】 【…을】 ①한 곳에서 다른 곳으로 장소를 이동하다. ㉠ 산에 가다 / 지방에 사는 친구에게 간다. ②수레, 배, 자동차, 비행기 따위가 운행하거나 다니다. ㉡ 폭풍우가 치는 날에는 그 섬에 가는 배가 없다. ④지금 있는 곳에서 어떠한 목적을 가지고 다른 곳으로 옮기다. ㉢ 밥을 먹으러 식당에 가다. 【Ⅴ】 ①어떤 대상이 다른 곳으로 이동하여 사라지다. ㉠ 나는 조금 있다가 갈 거야. 【Ⅶ】 【…을】 어떤 경로를 통하여 움직이다. ㉡ 길을 가다 / 밤길을 가다. 【Ⅷ】 【…에 / 에게 …을】 【…으로 …을】 ①어떤 일을 하기 위하여 다른 곳으로 이동하다. ㉠ 가족들과 함께 동물원에 구경을 갔다	【Ⅰ】 ①이곳에서 저곳으로 옮아 움직이다. ㉠ 학교에 가다. ②(있던 자리를) 떠나다. ㉡ 나 보기가 역겨워 가실 때에는 말없이 고이 보내 드리오리다. ③ (직업・학업・복무 따위로 해서) 몸 둘 곳을 옮기다. ㉢ 대학 교수로 가다. / 군대에 가다. 【Ⅱ】 ① (정보・기별・소식 따위가) 전하여 지다. ㉠ 기별이 가다.	【Ⅰ】 (1)이 (2)에 / 로 가다 ①(한 곳에서 다른 곳으로) 옮겨 움직이다. (1)유정명사 (2)장소명사 ㉠ 오늘 나는 바닷가에 갔어요. / 오후는 울케를 데리고 서울로 갔어요. ②일을 보기 위해 일정한 장소로 움직이다. (1)사람명사 (2)학교・교회… ㉡ 중학교 시절에는 주일이면 날마다 교회에는 가지 않고 친구들과 공을 찼습니다. ⑦(어디로) 향하거나 이어지다. (1)길・계단… (2)장소명사 ㉢ 우체국을 나온 그들은 못골로 가는 길로 접어들었다. 【Ⅱ】 (1)이 (2)를 가다 ① (어떤 표면을 길 삼아서) 움직이다. 이동하다. (1)유정명사 (2)길・사막…㉣ 어떤 나그네가 산길을 가다가 구렁이 속에 빠진 호랑이를 만났습니다. ②어떤 일을 하려고 있던 곳을 떠나 움직이다. (1)사람명사 (2)휴가・구경・일・이사… (‘를’ 이 생략되기도 함) ㉤ 마침내 서울로 이사를 간 것이 아니었던가? / 언니는 휴가 갈거야?
오다	【Ⅰ】 【…에 / 에게】 【…으로】 【…을】 ①어떤 사람이 말하는 사람 혹은 기준이 되는 사람이 있는 쪽으로 움직여 위치를 옮기다. ㉠ 나에게 오너라. / 군에 간 친구가 휴	【Ⅰ】 ①(다른 데서 이쪽으로) 움직여 이동하다. ㉠ 이리 오너라. / 친구들이 우리 집에 왔다. ②어떤 직책이나 소임	【Ⅰ】 (1)이 (2)에 / 로 오다 ①다른 곳에서 이 곳으로 움직이다. (1)유정명사 (2)장소명사 ㉠ 난 결국 가방을 챙겨 터미널에 오고 말았다.

	<p>가를 받아 학교에 왔다. ②어떤 사람이 직업이나 학업따위를 위하여 말하는 사람이 있는 쪽으로 옮기다. 『유능한 인재들이 우리 회사에 왔다.』</p> <p>[2] 【…에 / 에게】 【…으로】</p> <p>①수레, 배, 자동차, 비행기 따위가 말하는 이가 있는 쪽을 향하여 운행하다. 『부산으로 오던 기차가 사고가 났다.』 ②물건이나 권리 따위가 자기에게 옮겨지다. 『사과가 나에게 두 개나 더 왔다.』 ④소식이나 연락 따위가 말하는 사람이 있는 곳으로 전하여지다. 『집에 편지가 왔다.』</p> <p>[7] 【…을】</p> <p>어떤 경로를 통하여 말하는 사람이 있는 쪽으로 위치를 옮기다. 『어두운 산길을 왔더니 너무 힘들다.』</p> <p>[8] 【…에 / 에게 …을】 【…으로…을】</p> <p>(‘…을’ 성분은 주로 서술성이 있는 명사가 온다) 어떤 목적 혹은 어떤 일을 하기 위하여 말하는 이가 있는 곳으로 위치를 옮기다. 『남자아이가 우리 학교에 전학을 왔다.』</p>	<p>따위를 띠고 부임하다. 『이 분이 이번에 교장으로 오신 분이다.』</p> <p>[Ⅱ] ⑧(편지전보전갈소식 등이) 전하여지거나 알려 지다. 『편지가 오다. / 그가 온다는 전갈이 오다.』</p>	<p>②(일정을 보기 위해) 다른 곳에서 이 곳인 일정한 장소로 움직이다. (1)사람명사 (2)학교・교회・회사… 『개 오를 학교 안 왔어요.』</p> <p>③입학하거나 들어가다. (1)사람명사 (2)학교・군대・감옥… 『그러던 어느날 군대에 오라는 통지서가 날아들었다.』</p> <p>⑧무엇이 닿거나 전달되거나 도착하다. (1)무정명사 『누군가의 손이 어깨에 와 닿았다.』 / 드디어 집에서 돈이 왔다.</p> <p>⑨(소식, 연락 등이) 누구에게 알려지거나 전하여지다. (1)소식・연락・전화… 『조금 있으려니 안에서 들어오라는 신호가 왔다.』 / 너한테 소포가 왔더라.</p> <p>[Ⅳ] (1)이 (2)에 / 로 (3)을 오다</p> <p>①(어떠한 일을 하러) 일정한 장소로 움직이다. (2)장소명사 (3)유학・문명… 『작년 일월, 세란이 상희와 함께 세배를 왔을 때였다.』</p> <p>②(무엇을 할 목적으로) 움직이다. (2)장소명사 (3)이사・도망… 『어머니는 나를 데리고 아는 사람 하나 없는 서울로 도망을 왔다.』</p> <p>[Ⅴ] (1)이 (2)를 오다</p> <p>①어떠한 길을 통하여 어디로 움직이다. (2)길…</p> <p>『먼길을 어렵게 왔는데 그렇게 쉽게 돌아갈 수가 없어요.』</p>
모이다	<p>[1] ① ‘모으다 [1] 「1」’의 피동사. 『재료가 다 모이면 한데 섞여라.』 ② ‘모으다 [1] 「2」’의 피동사. 『그는 우표가 하나둘씩 모일 때마다 그렇게 기뻐할 수 없었다.』 ③ ‘모으다 [1] 「3」’의 피동사. 『돈이 좀 모였어? / 이웃 돕기 성금이 많이 모였을까?』</p> <p>[2] 【…에】 【…으로】</p> <p>「1」 ‘모으다 [2]’의 피동사</p> <p>『오랜만에 온 식구가 한 장소에 모였다. / 우리는 내일 약속 장소로 모이기로 하고 헤어졌다.』</p>	<p>【‘모으다’의 피동】 ①여럿이 한곳으로 오다. 집합하다. 『청중이 모이다.』 ②돈이나 재물이 쌓이다. 『돈이 모이다.』</p>	<p>[Ⅰ] (1)이 모이다</p> <p>①(무엇이) 한곳에 합쳐지다. 모아지다. 『여기저기에 불빛이 웅기중기 모여 있었다.』 ② (돈이나 물건 따위가) 들어와 쌓이다. (1)구체명사 『어느 정도 자료가 모이면, 나는 본격적으로 그 사실을 알고하고자 한다.』</p> <p>[Ⅱ] (1)이 (2)에 / 로 모이다</p> <p>①(여럿이) 한곳에 오다. (1)유정명사 『식구들은 화로둘레에 모여 앉는다.』</p>

3.3 韓国語辞書の意味記述と用例の再検討と

問題点

『표준국어대사전』も『연세한국어사전』も動詞の結びつく格を示している。そして、多数の格と結びつく動詞の場合は、それぞれの格を示し、各格と結びつく場合の意味について示している。例えば、「떠나다 (発つ)」の場合、『표준국어대사전』は「떠나다 (発つ)」が結びつく格【…으로】

と【…에서 / 에게서】【…을】を示し、それぞれの格と結びつく場合の意味を示している。

『연세한국어사전』は、【[Ⅰ] (1)이 (2)를 떠나다】 【[Ⅱ] (1)이 (2)로 떠나다】のように文型を示し、さらに、それぞれの格に現れる名詞の性質を示している。例えば [Ⅰ] の文型を取る場合、(1)には有情名詞、(2)には場所名詞が現れ、“다른 데로 가려고 있던 데에서 옮겨가다. 멀어지다. (他のところに行こうと元いた場所から移る。遠ざか

る。)” という意味を表すことを示している。そして, “(무엇에) 그대로 머물러 있지 않다. ((何かに) そのままとまっていない)” という意味を表す場合は, (1)には人名詞, (2)には学校・職場などの名詞が現れることを示している。文型のみではなく, 名詞の性質まで示すのは, 「떠나다 (発つ)」以外の動詞「뛰다 (走る)」「가다 (行く)」「오다 (来る)」「모이다 (集まる)」の場合も同様である。

『표준국어대사전』のように動詞の結びつく格を示すのも大事であるが, 『연세한국어사전』のように, 動詞の結びつく格のみではなく, それぞれの格に現れる名詞の性質までも示されていると, 韓国語学習者はより正確な表現を学習することができると思われる。2節でも述べたように, 移動体に現れる名詞の性質によって, 結びつく格が制限されることがあるので, 名詞の性質を示すことは重要なことであると思われる。2節で考察した日本語辞書の中で『日本語基本動詞用法辞典』も『연세한국어사전』と同様に動詞の取る文型と現れる名詞の性質を示している。

ただし, 『연세한국어사전』『日本語基本動詞用法辞典』の二つの辞書において, それぞれの格に現れる名詞の性質のみが示されており, その格がどのような意味役割を果たすかは示されていない。例えば, 「떠나다 (発つ)」は, ある場所からの出発を表す場合, 【(1)이 (2)를 떠나다】の文型を取り, (1)には有情名詞, (2)には場所名詞が現れるとしている。このような記述からは(2)の「(場所名詞)를」がどのような意味を果たすかはよく分からない。もちろん「떠나다 (発つ)」の語彙的意味記述から理解できる場合もあるが, この記述の上に, 「(場所名詞)를: 出発点」のように, 「(場所名詞)를」が出発点を表すという意味まで示すと更に詳しい記述になると思われる。これは2節の日本語辞書について考察する際にも述べた

とおりである。

このような記述は基本的な意味から抽象的な意味になっていくと更に必要である。現れる名詞の性質を示すのみでは, 簡単に理解できない場合もあり, その名詞が格助詞と共に動詞と結びついた場合, どのような意味役割を果たすかも示すべきであろう。

『표준국어대사전』と『연세한국어사전』に比べ, 『동아새국어사전』の場合は多々問題があると思われる。『동아새국어사전』の場合は, 動詞の結びつく格などは示されておらず, 語彙的意味と用例のみが示されている。その用例も, 一般的な表現ではない場合がある。例えば, 「가다 (行く)」の場合, [I] の “② (있던 자리를) 떠나다.” の語彙的意味の用例として, 「나 보기가 역겨워 가실 때에는 말없이 고이 보내 드리오리다.」があげられているが, これは詩の一部分であり, 一般的な表現ではない。『동아새국어사전』は小型辞書として, 紙面の制約などもあると思われる。しかし, 日本語辞書の『新明解国語辞典』も同じ小型辞書であるが, 動詞の取る格が表示されている。『연세한국어사전』のような詳しい表記はできないとしても, 動詞の取る格と名詞の性質を示し, さらに, その格が動詞と結びついて, どのような意味ではたらくかを示すことで, 学習者の学習効果はさらに高まると思われる。

4. 本稿の考察に基づく試案

2節で, 三冊の日本語辞書の意味記述や用例提示について再考し, 不十分な意味記述や用例提示などについて考察してきた。そして, 3節では, 韓国語辞書三冊を考察した。この節では, 2節と3節で考察したことを踏まえた上で, 実際の使用に見られるそれぞれの動詞の語彙的意味に基づき,

日本語の移動動詞を例に新たな意味記述や用例提示の試案を提示する⁽⁸⁾。本稿の試案は現行の辞書記述に比べ、大きく次のような点を改善しようとするものである。

- 1) 実際の使用頻度から見つけ出した語彙の意味に基づく意味記述を示す。
- 2) 多側面の語彙の意味をもつ動詞の場合は、それぞれの側面を示す。
- 3) 使用頻度から最も多く現れる格順に示す。
- 4) 文型を示す際に、それぞれの結びつく名詞句の意味を示す。
- 5) 意味の説明と文型と用例を分けてそれぞれ示す。

4.1 本稿の試案の特徴

考察動詞全体に対する意味記述を示す前に、いくつかの動詞の意味記述を例に示し、現行の日本

語辞書とどのような点が異なるかを示す。

まず、「ぬける」を例にして説明する。表1に示したように、「ぬける」は経由点を通り抜ける経由動作を表すと共に到着点への位置変化を表す、二つの語彙的意味の側面をもつ動詞である。しかし、現行の辞書からは、「ぬける」の二つの語彙的意味の側面を確認することは難しい。考察した三冊の辞書のうち、『広辞苑』『新明解国語辞典』は、いずれも経由点を通り抜ける経由動作のみを表し、到着の位置変化についての記述や用例はあまり示されていない。『日本語基本動詞用法辞典』においては、「ぬける」の二つの語彙的意味の側面を示しているかのようにも見えるが、十分な記述ではないと思われる。本稿の試案とどのような点が異なるかを示すために、「ぬける」についての『日本語基本動詞用法辞典』の記述と本稿の試案を次の表4に示す。

表4 「ぬける」に対する現行の辞書記述と本稿の記述

	『日本語基本動詞用法辞典』	本稿の試案
ぬける	<p>(5)ある場所を通して向こう側へ出る。または、道やトンネルなどが向こう側に通じる。</p> <p>《文型a》[人・乗り物] {が / は} [所] ヲ抜ける (例) 僕は森を抜けて野原へ出た・トラックがトンネルを抜けた</p> <p>《文型b》[道] {が / は} ([所] {に / へ}) 抜ける (例) このトンネルは海岸に抜ける・この道は駅前へ抜ける</p>	<p>・ある場所を通して向こう側に出る。</p> <p>[文型]【有情物 {ガ / ハ} [場所: 経由点] {ヲ} ぬける】 (例) 大治郎は雑木林をぬけた</p> <p>[文型]【有情物 {ガ / ハ} [場所: 到着点] {ニ / へ} ぬける】 (例) 私は霞町にもどって広尾へ抜けた</p>

『日本語基本動詞用法辞典』のような記述や用例提示からは、「ぬける」は有情物移動体の場合、経由動作のみを表す動詞であることになる。

しかし、本稿の試案のように示すと、「ぬける」が経由点を通り抜ける動作を主に表しながら、到着の位置変化をも表す動詞であることが明らかである。また結びつく名詞句がどのような意味を表

すか（到着点か目的地かなど）も明確である。

次に、類似の意味をもつ動詞の意味記述・用例提示の仕方について、〈方向志向動詞〉を例にして、現行の辞書と本稿の試案との違いを示すことにする。現行の辞書としては文型などが示されている『日本語基本動詞用法辞典』の記述を示す。

表5 〈方向志向動詞〉に対する現行の辞書と本稿の試案

	『日本語基本動詞用法辞典』	本稿の試案
さがる	(3)それまでいた部屋から退出する、または、後ろへ移動する。 《文型》【人】{が / は} (【所】{から / を}) (【所】{に / へ / まで}) 下がる (例) 妻が客間から居間【台所】に下がった・後ろへ下がる・一步下がる	・前方から後方へ移動する。 〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所: 方向, 到着点] {ニ / へ} さがる】 (例) 兵士たちははるか後方にさがり、戦後処理をした・私たちは茶の間へ下がり、お茶を飲んだ
すすむ	(1)ある物が前の方に動いたり、移動したりする。 《文型》【人・組織・生き物・乗り物・物】{が / は} (【道・所】を) (【所】から) (【所】{に / へ} 進む) (例) 新生児が校門から講堂に進んだ・象の群が草原を進む	・前方のほうに移動する。 〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所: 方向, 到着点] {ニ / へ} すすむ】 (例) 早瀬は玄関の方へ進んだ ・前の方に三步進んだ・彼は社殿に進んだ・前の方に向かってある場所を移動していく。 〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所: 経路] {ヲ} すすむ】 (例) 五人は並んで細い道を進んだ
とぶ	鳥。昆虫。飛行機。物などが空中を移動する。 《文型》【人・生き物・物】{が / は} (【所】を) (【所】から) (【所】{に / へ}) 飛ぶ (例) 飛行機が空を飛ぶ・ボールが外野席へ飛んだ	・鳥、飛行機などが空中を移動する。 〔文型〕【有情物／無情物 {ガ / ハ} とぶ】 (例) 鳥が飛んでいる・ほこりが飛んだ ・ある方向や場所に向かって空中を通して移動していく 〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所: 方向, 目的地] {ニ / へ} とぶ】 (例) ハエは老人の方へ飛んだ・飛行機は南の方に飛んだ・山本はブインに飛んだことがある ・空中を進んでいく 〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所: 経路] {ヲ} とぶ】 (例) 飛行機はシベリア上空を飛んだ

〈方向志向動詞〉の「さがる」「すすむ」「とぶ」はそれぞれ異なる語彙的意味の側面をもちつつも、方向の「二格／へ格」名詞と最も多く結びつき、ある方向に移動するという共通の意味をもつ動詞である。ところが、現行の日本語辞書の記述からはこれらの動詞が共通する意味をもっていることをうかがうことはできない。

しかし、本稿のように、意味記述のみではなく、それぞれの動詞の取る文型とそれぞれの名詞句の表す意味を記述すると、三つの動詞の共通点と相違点とが分かりやすくなる。すなわち、「さがる」「すすむ」「とぶ」が方向を表すという共通性をもつ動詞であること、そして、共通する意味のみで

はなく、「さがる」「すすむ」は到着の位置変化をも、「すすむ」「とぶ」は経路を通る経路動作をも表し、「とぶ」は場所名詞句との結びつきなしで、移動様態を表すというように、それぞれの動詞が異なる意味の側面をも合わせもっていることも確認できるのである。

4.2 本稿の試案

4.1で、二つのタイプを例にとって現行の辞書とは異なる本稿の試案の特徴を示した。以下では、表1に示した全ての移動動詞についての空間的移動の場合の意味・文型・用例を示す。動詞の順は表1の分類順である。

〈1〉 出発志向動詞

動 詞	意味・文型・用例
はなれる	<ul style="list-style-type: none"> ・もといた場所から遠ざかる。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所 / 物：出発点] {ヲ / カラ} はなれる】 【有情物 {ガ / ハ} [人：出発点] {カラ} はなれる】 【有情物 {ガ / ハ} [人のところ、前など相対名詞：出発点] {ヲ} はなれる】 (例) 彼は防波堤を離れた・課員は持ち場から離れる・僕はお父さんから離れ、先生のところへ行った・主任の前を離れた</p> <p>〔文型〕【無情物 {ガ / ハ} [物 / 場所：出発点] {ヲ / カラ} はなれる】 (例) 秋山の木刀が手から離れた・シャンデリアが天井を離れた</p>
たつ	<ul style="list-style-type: none"> ・もといた場所から離れ、別のところに向かって行く。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：出発点] {ヲ / カラ} たつ】 (例) 彼は東京を逸った</p> <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] カラ) [場所：目的地] {ニ / ヘ} たつ】 (例) 主人はアメリカに逸った・彼女は明日東京からニューヨークに逸つ</p>
さる	<ul style="list-style-type: none"> ・その場所から離れる。もといた場所から目的地に向かって出発する。無情物が移動体として現れるのは難しい。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：出発点] {ヲ / カラ} さる】 (例) 先生が教室を去った・太郎は若者の前から去った</p> <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] カラ) [場所：目的地] {ニ / ヘ} さる】 (例) 彼女は郷里へ去った</p>
おりる	<ul style="list-style-type: none"> ・上の方から下の方へ移動する。・上の方から下の方へ出発する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：出発点] {ヲ / カラ} おりる】 (例) 彼は舞台をおりて、観客間を歩き回った・彼は屋根から降りた</p> <p>〔文型〕【無情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] カラ [場所：到着点] {ニ / ヘ}) おりる】 (例) 幕がおりる ・上の方から下の方の場所に位置変化する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] カラ) [場所：到着点] {ニ / ヘ} おりる】 (例) 彼女は土間に降りた・彼女は2階から1階に降りた ・上から下に向かってある場所を通っていく。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} おりる】(例) 外山は階段を降りた</p> </p></p>

〈2〉 経路志向動詞

動 詞	意味・文型・用例
すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場所を通り抜けて移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路点] {ヲ} すぎる】(例) バスは交差点を過ぎた</p>
よぎる	<ul style="list-style-type: none"> ・その場所を横切るように通過する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路点] {ヲ} よぎる】(例) 徹吉は蔵の横手をよぎった</p>
こえる	<ul style="list-style-type: none"> ・障害となる場所や物を通り過ぎてその先へ行く。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路点] {ヲ} こえる】 (【有情物 {ガ / ハ} [場所：出発点] {カラ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} こえる】) (例) みんなは峠を越えた・私はロータリーを越えて、古本屋へ向かった (例) 彼は黒部川の上流を左に眺めながら、富山県から長野県側に越えた</p>
くぐる	<ul style="list-style-type: none"> ・(身をかかめて) 物の下や狭い所を通過する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路点] {ヲ} くぐる】 (例) 学生が真面目な顔をして校門をくぐった・二人はペンキ塗りのアーチをくぐった</p>

ぬける	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場所を通して向こう側に出る。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経由点] {ヲ} ぬける】(例) 大治郎は雑木林をぬけた [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} ぬける】(例) 私は霞町にもどって広尾へ抜けた
わたる	<ul style="list-style-type: none"> ・一方の側からある所を通して他方の側に移動する [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経由点] {ヲ} わたる】(例) 彼は横断歩道を渡った [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} わたる】(例) 宣教師たちは小船で島に渡った
とおる	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場所を進んで抜ける。 ・ある場所を通り過ぎていく。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経由点] {ヲ} とおる】(例) 山本と一行は逸見の波止場の門を通った [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} とおる】(例) タクシーが市内を通った

〈3〉 経路志向動詞

動 詞	意味・文型・用例
めぐる	<ul style="list-style-type: none"> ・あるところから出発していろいろなところを回っていく。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} めぐる】(例) 僕は街をめぐった
つたう	<ul style="list-style-type: none"> ・物や場所に沿って離れないように進んでいく。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} つたう】(主に「つたって」で現れる) (例) 彼は廊下をつたって本堂裏へきた・その小勢があぜ道をつたいながら城にむかって近づいてきた [文型] 【無情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} つたう】 (例) 水が体を伝った・涙は頬をつたって硬い岩盤の上に落ちた
まわる	<ul style="list-style-type: none"> ・あるところからぐりと円を描くように移動する。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} まわる】(例) 私は金沢の市内を回った
たどる	<ul style="list-style-type: none"> ・ある方向に向かって道筋に沿って進んでいく。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} たどる】(例) 私は金閣への道を辿った
ぶらつく	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な目的無しにぶらぶらと歩き回る [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ぶらつく】(例) 初老の紳士が村の中をぶらついた
うろつく	<ul style="list-style-type: none"> ・ある範囲内をあてもなく歩き回る。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} うろつく】(例) 怪しい者が平野屋のまわりをうろつく
さまよう	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地も定まらずひたすら歩き回る。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} さまよう】(例) 彼は街をあちこちとさまよった
くだる	<ul style="list-style-type: none"> ・高いところから低いところへある経路を通して移動する。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：到着点, 方向] {ニ / ヘ}) くだる】 (例) 私は丘を下った・光秀は南山城の野を南にくだった [文型] 【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) [場所：到着点] {ニ / ヘ} くだる】 (例) 俊一は浜辺へくだった・私たちは八ヶ丘から藤沢に下った
はう	<ul style="list-style-type: none"> ・手足または体を地面・床につけた状態で進んでいく。 ・手足または体を地面・床につけた状態である経路を進んでいく。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} はう】(例) 彼は這いながら、一步一步と山の頂上に近づいていった [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：方向] {ニ / ヘ}) ([場所：到着点] {マデ}) はう】 (例) 加藤は雪の上を這った

あるく	<ul style="list-style-type: none"> ・両足を使って一步一步進んで移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} あるく】(例) 私は寒くて震えながら歩いた・彼は歩いて下宿へ帰った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いてある方向に向かっていく。ある経路を進んでいく。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：方向] {ニ / ヘ}) ([場所：到着点] {マデ}) あるく】</p> <p>(例) 三原は札幌市内を歩いた・赤兵衛は京の町を西へ歩いた・先生は職員室の方に歩いた・彼は会社まで歩いた</p>
かける	<ul style="list-style-type: none"> ・早く走る。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} かける】(例) 私は総門を出ると一散に駆けた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある経路を早く走って移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：方向] {ニ / ヘ}) ([場所：到着点] {マデ}) かける】</p> <p>(例) われわれは廊下を駆けた・彼は尾根道を北に駆けた</p>
およぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・手足やひれを動かしながら水面または水中を移動する <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} およぐ】(例) 船長と乗組員は泳いで岸に辿りついた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある経路を、泳いで移動する。または目的地まで泳いで移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：方向] {ニ / ヘ}) ([場所：到着点] {マデ}) およぐ】</p> <p>(例) 川面を白鳥が泳いだ・私は必死で浅橋まで泳いだ</p>
すべる	<ul style="list-style-type: none"> ・なめらかに進んでいく。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} すべる】(例) 飛行機が滑るように着陸した</p> <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：方向] {ニ / ヘ}) ([場所：到着点] {マデ}) すべる】</p> <p>(例) 子供が廊下を滑って入り口まで行った。</p>
はしる	<ul style="list-style-type: none"> ・両足を交合に動かし、速い速度で移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} はしる】(例) 彼は長い手足をアヒルのようにぶきっちょに振って走った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある経路を早く走って移動する。または目的地に向かって移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：目的地] {ニ / ヘ}) ([場所：到着点] {マデ}) はしる】</p> <p>(例) 三人はドタドタと廊下を走った・自動車は雪の道を浜坂へ走った・彼は学校まで走った</p>

〈4〉 到着志向動詞

動 詞	意味・文型・用例
いたる	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場所に行き着く。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) [場所：到着点] {ニ / ヘ} いたる】</p> <p>(例) 田淵さんは汽車に乗って下深川に到り、そこから徒歩で広島に入った</p>
うつる	<ul style="list-style-type: none"> ・今までとは異なる位置に移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) [場所：到着点] {ニ / ヘ} うつる】</p> <p>(例) 私と小男は居間に移った・彼女は一階から2階へ移った</p>
つく	<ul style="list-style-type: none"> ・人や物など他のところから移動した結果、ある場所に到着する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) [場所：到着点] {ニ / ヘ} つく】</p> <p>(例) バスは八時に室津に着いた・明日彼が東京から博多に着く</p> <p>〔文型〕【無情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) ([場所：到着点] {ニ / ヘ}) つく】</p> <p>(例) 一日遅れて葉書がついた</p>

おもむく	<ul style="list-style-type: none"> ・用事などであるところに向かって行く。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} おもむく】 (例) 所長は東京へ行って、本店に赴いた
しりぞく	<ul style="list-style-type: none"> ・後ろに向かって移動する。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} (距離) [場所：到着点] {ニ / ヘ} しりぞく】 (例) 彼は一步退いた・彼らはさっさと退いた・作造は書院へ退いた
むらがる	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人や動物がある所に集まる。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} むらがる】(例) 子供たちが広場にむらがった [文型] 【有情物 {ガ / ハ} むらがる (主にテ形で現れ、他の動作の状態を表す)】 (例) 町の人が群がって話し合っている
あつまる	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人や物が一ヶ所に移動する。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} あつまる】 【有情物 {ガ / ハ} あつまる】 (例) 研修生たちが食堂に集まった・親戚の人が集まって、こたつを囲んでいる [文型] 【無情物 {ガ / ハ} ([場所：到着点] {ニ / ヘ}) あつまる】 (例) 材料が集まった・支援物資が港に集まった
むれる	人や動物が一ヶ所に集まる。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} むれる】 (例) バッファローが谷間に群れ、女たちは戸口にその姿を見せていた [文型] 【有情物 {ガ / ハ} むれる】(例) 男が四、五人群れて、がやがやと議論している
もどる	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場所からいったん移動した者が、再び元いたその場所に帰る。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) [場所：到着点] {ニ / ヘ} もどる】 (例) 俊介はタバコをふかしながら部屋に戻った <ul style="list-style-type: none"> ・元いた場所に帰るために道など経路を通していく [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} はいる】(例) 私はかゆっくり地下道に戻った
いく	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場所から他のところへ移動する。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} いく】 (例) 二人は出版社へ行った・理一は家から会社に行った <ul style="list-style-type: none"> ・ある場所へ移動するために道などを通していく [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：到着点, 方向] {ニ / ヘ}) いく】 (例) 彼は街道をまっすぐ行った・桃子は青山の電車通りを渋谷の方に行った
かえる	<ul style="list-style-type: none"> ・本拠地に移動する。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} かえる】(例) 公文は自分の部屋に帰った <ul style="list-style-type: none"> ・ある場所へ移動するために道などを通していく。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} ([場所：到着点, 方向] {ニ / ヘ}) かえる】 (例) 彼は来た道を歩いて帰った <ul style="list-style-type: none"> ・その場からいなくなる。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} かえる】(例) 客が帰った <ul style="list-style-type: none"> ・ある場所を経由していく。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：経由点] {カラ} かえる】(例) 裏道から帰る
くる	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手や話題になっている場所・人のところへ移動する。 [文型] 【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} くる】 (例) 友達が家に来た・彼は大阪から東京に来了 [文型] 【無情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) ([場所：到着点] {ニ / ヘ}) くる】 (例) 年賀状が来た・アメリカから石油が来た

	<ul style="list-style-type: none"> ・道など経路を通っていく <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} くる】(例) 彼は細い道を来た</p>
はいる	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からある領域、場所の中へ移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) [場所：到着点] {ニ / ヘ} はいる】 (例) 太郎は駅前のパチンコ屋に入った・一行はポーランドからソ聯領に入った <ul style="list-style-type: none"> ・ある通過点を通して中に移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経由点] {カラ / ヲ} ([場所：到着点] {ニ / ヘ}) はいる】 (例) 彼は門を入ると、庭の方へ行った・加藤は従業員の出入り口から店に入った </p></p>
でる	<ul style="list-style-type: none"> ・中から外に移動する。ある場所に行く。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} でる】 (例) 彼は庭に出た・私はすっかり暗くなった街に出た <ul style="list-style-type: none"> ・ある場所から離れる。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：出発点] {ヲ / カラ} でる】 (例) 彼女は部屋を出た・太郎は駅長室から出た・彼女は家から外に出た <ul style="list-style-type: none"> ・中から外に移動するため経由点を通過する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経由点] {ヲ / カラ} でる】 (例) 彼女は改札口を出た・加藤は二階へ行って窓から出た <ul style="list-style-type: none"> ・物などが現れる。 <p>〔文型〕【無情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) ([場所：到着点] {ニ / ヘ}) でる】 (例) コーヒーが出た・上着のポケットから名刺入れが出た・サラダが食卓に出た </p></p></p></p>
あがる	<ul style="list-style-type: none"> ・下から上へ移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：到着点] {ニ / ヘ} あがる】 (例) 加藤は二階にあがって、手紙を書いた <ul style="list-style-type: none"> ・下から上の方へ向かって階段や坂などある場所を通っていく <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} はいる】(例) 鮎太は階段を上がった</p> </p>
のぼる	<ul style="list-style-type: none"> ・高いところへ移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) [場所：到着点] {ニ / ヘ} のぼる】 (例) 彼は展望台にのぼった</p> <p>〔文型〕【無情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) ([場所：到着点] {ニ / ヘ}) のぼる】 (例) 朝日がのぼった・月が山の上にのぼった <ul style="list-style-type: none"> ・高いところに向かって坂道、階段などをあがっていく <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経路] {ヲ} のぼる】(例) 私は坂道を登った <ul style="list-style-type: none"> ・ある場所を経由していく <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：経由点] {カラ} のぼる】(例) 泉の傍の小道から山を登った</p> </p></p>

〈5〉 目的地志向動詞

動 詞	意味・文型・用例
むかう	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場所や方向を目指して移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} ([場所：出発点] {カラ}) ([場所：経路] {ヲ}) [場所：目的地] {ニ / ヘ} むかう】 (例) 私は学校に向かった・彼らは土手道を南に向かった</p>

〈6〉 方向志向動詞

動 詞	意味・文型・用例
さがる	<ul style="list-style-type: none"> ・前方から後方へ移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} [場所：方向，到着点] {ニ / ヘ} さがる】 (例) 兵士たちははるか後方にさがり、戦後処理をした・私たちは茶の間へ下がって、お茶を飲んだ</p>

すすむ	<ul style="list-style-type: none"> ・前方のほうに移動する。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} 〔場所：方向，到着点〕 {ニ / ヘ} すすむ】</p> <p>（例）早瀬は玄関の方へ進んだ・前の方に三步進んだ・彼は社殿に進んだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の方に向かってある場所を移動していく。 <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} 〔場所：経路〕 {ヲ} すすむ】（例）五人は並んで細い道を進んだ</p>
とぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥，飛行機などが空中を移動する。 <p>〔文型〕【有情物／無情物 {ガ / ハ} とぶ】（例）鳥が飛んでいる・ほこりが飛んだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある方向や場所に向かって空中を通過して移動していく <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} 〔場所：方向，目的地〕 {ニ / ヘ} とぶ】</p> <p>（例）ハエは老人の方へ飛んだ・飛行機は南の方に飛んだ・山本はブインに飛んだことがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空中を進んでいく <p>〔文型〕【有情物 {ガ / ハ} 〔場所：経路〕 {ヲ} とぶ】（例）飛行機はシベリア上空を飛んだ</p>

5. 終わりに

本稿では現行の三冊の日本語辞書の意味記述や提示された用例の不十分なところを指摘し、さらに韓国語辞書の考察を通じ、実際の使用に基づく新たな意味記述を提案した。本稿で提案した意味記述や用例提示などは、使用頻度に基づくものであり、それぞれの動詞の文型を示すと同時に結びつく名詞句の意味を示すことにより、動詞の語彙的意味をより正確に把握できることをねらいとするものである。

本稿の目的にも書いたように、辞書は外国語学習者が大いに参考にするものである。特に中級，上級の学習者は、文を作る際に辞書に記載されている意味や用例を参考にすることが多い。その際に、実際に彼らが接する頻度の高い用例や意味が示されていることは、学習効率を高めることになると思われる。使用頻度の低い用例や動詞のもつ意味の一側面しか提示されていない辞書の使用は、時には学習者の誤用を招くことにもなるだろう。もちろん辞書には紙面の制約などがあるので、動詞のもつ語彙的意味の全ての側面を載せることは不可能である。しかし、使用頻度の低い用例から使用頻度の高い用例に換えることはそれほど難

しいことではない。また、多面的な語彙の意味をもつ動詞の側面を示すのも、提示された用例である程度は解決できるものである。このような使用頻度の高い用例の提示は、辞書だけではなく、教材の用例提示についても同様なことが言えるだろう⁽⁹⁾。語彙の意味の多面性や使用頻度の高さが実用的に辞書や教材にも反映されることになれば、学習者の学習効率を高めることにもなり、外国語教育にも役立つものになると思われる。今回は日本語辞書と韓国語辞書を考察し、日本語を例に意味記述の試案を提示したが、それは日本語や韓国語のみならず他の言語においても同様であろう。辞書や教材に実際の使用頻度に基づく語彙の意味や用例などが反映されることは外国語教育に必要なものであると考えられる。

註

- (1) 本稿は2008年9月に提出した博士論文（審査中）の一部に加筆修正を行い、さらに韓国語辞書の考察を加えたものである。
- (2) 調査言語資料は、『新潮文庫の100冊』CD-ROM版（1995）からの54冊（翻訳作品を除く1945年以降の作品42冊，1945年以前の作品12冊）とそれ以外の小説，紀行文など10冊（1945年以降の作品）の計64冊である。
- (3) 日本語においては、無情物移動体の移動を表す場合、出発点はカラ格名詞で表され、ヲ格名詞は難しい。

- (4) ヲ格名詞が経由点を表す場合と経路を表す場合があるが、経由点は通り抜ける場所であり、経路は通っていく場所を表す。つまり、経由点は点的な場所で、経路は線的な場所である。それは動詞の語彙的意味と関係があるが、それについては李善姫 (2004, 2009) に詳しい考察がある。
- (5) 李善姫 (2004) によると、「くだる」は実際の使用において、経路と 47.7%, 到着点と 33.6% の結合頻度を見せている。
- (6) 到着点は移動体が到着した場所を表し、目的地は到着の位置変化までは含まない場所を表す。目的地と到着点の違いについては李善姫 (2004, 2009) を参照されたい。
- (7) 李善姫 (2009) によると、「かえる」の有情物移動体の空間的移動の用例は 1,822 例であるのに、抽象名詞や物名詞が移動体として現れる用例は約 20 例ほどである。
- (8) 今回は韓国語の場合は、実際の言語資料における使用頻度を調べていないので、韓国語の動詞に関しては示さないことにする。韓国語の場合は、改めて使用頻度などを調べ、別稿で示すことにする。
- (9) 노마히데키 [野間秀樹] (2002) にも韓国語教材における自然な例文提示の必要性について述べられているように、使用頻度の高い、自然な用例が提示されている教材が必要であろう。

参考文献

李善姫 (2001) 「格支配による移動動詞の分類と考察」, 東京外国語大学大学院平成 12 年度修士論文

- 李善姫 (2004) 「格結合頻度からみた移動動詞の語彙的意味」, 『日本研究教育年報』8: 1-27, 東京: 東京外国語大学日本課程・留学生課共編
- 李善姫 (2009) 『日本語の移動動詞の研究』, 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士論文 (審査中)
- 国広哲弥 (1997) 『理想の国語辞典』, 東京: 大修館書店
- 国広哲弥 (2006) 『日本語の多義動詞 — 理想の国語辞典Ⅱ』, 東京: 大修館書店
- 宮島達夫 (1972) 『動詞の意味・用法の記述的研究』, 東京: 国立国語研究所
- 宮島達夫 (1994) 『語彙論研究』, 東京: むぎ書房
- 노마히데키 [野間秀樹] (2002) “한국어 어휘와 문법의 상관구조”, [韓国語の語彙と文法の相関構造], 서울: 태학사

参考辞書

- 『広辞苑』第六版 (2008), 新村出編, 東京: 岩波書店
- 『新明解国語辞典』第六版 (2005), 柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田昭雄編, 東京: 三省堂
- 『日本語基本動詞用法辞典』第六版 (1993), 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹編, 東京: 大修館書店
- “동아새국어사전 제 5 판 [東亜新国語辞典]” (2003), 두산동아사서편집국篇, 서울: 두산동아
- “연세한국어사전 [延世韓国語辞典]” (1997), 연세대학교 언어정보개발원篇, 서울: 두산동아
- “표준국어대사전 [標準国語大辞典]” (1999), 국립국어원篇, 서울: 두산동아